

開催日時：平成17年2月22日（火） 18：00～21：00

場 所：国民会館・住友生命ビル 12階 大ホール

出席委員：池淵委員長、増田委員、高橋委員、中川委員、山下委員、井野瀬委員

1. 議 題

(1) 前回議事要旨確認

(2) ・一級河川淀川水系西大阪ブロック及び寝屋川ブロック新規事業について

・一級河川淀川水系神崎川ブロック河川整備計画 治水計画について

2. 概 要

・一級河川淀川水系西大阪ブロック及び寝屋川ブロック新規事業について

寝屋川ブロックにおける新規事業（警察待機宿舎、他2箇所）と西大阪ブロックにおける新規事業（八軒家浜、津波ステーション（仮称））について整備方針等の説明を行い、以下の委員会意見等を十分踏まえ、地域等と協議、調整のうえ、事業を行うこととする。

・河川整備委員会における建設事業評価の取り扱い

（事務局）府では着手前、実施中、完了の事業を「建設事業評価委員会」にて、事業評価を行い「府の対応方針」を決定している。ただし、河川事業の事前評価については、河川整備計画の策定にあたり、住民意見の反映や本委員会での審議など、建設事業評価委員会と同様の手続きを行っていることから、策定された河川整備計画を踏まえ「府の対応方針」を決定している。今回報告する2つのブロックの新規事業については、河川整備計画策定時に検討中であったため整備の方向性のみを記載していたもの及び現在、河川整備計画の審議中のもので、それぞれ地域や関係機関との熟度が上がり、事業が具体化されたので、本委員会において、河川整備計画との整合性や実施に際しての意見等を伺い、府の対応方針を決定したい。

・寝屋川ブロック新規事業

（委員）待機宿舎前の親水公園の規模について4000m²と大きく感じる。この公園に隣接した縦長の土地利用の計画はどうなるのか。

（事務局）既存公園の広さは3400m²であり、今回の建替で既存公園を河川敷に移動する形で親水性を持った公園として、4000m²で計画している。

隣接する縦長の用地は、宅地・一戸建て住宅を見込んだ配置計画と聞いている。

（委員）公園から見た対岸側の眺望や、対岸から公園を見たときの見え方等は配慮されているか。

（事務局）ワークショップにより、全体の現地調査等も行い、今回の整備箇所を抽出している。今後、細部の検討で対応していきたい。

- (委員) イメージパースにある樹木等について、引堤だから大丈夫ということではなく、治水上の検討も必要では。
- (委員) 墓地公園前の整備は、地域の方だけでなく、来園者の事も配慮した親水性プラスアルファの観点も必要では。
- (委員) イメージパースでは、様々な施設配置やワンドなどが描かれているが、整備後の維持管理の実現性、また維持管理の負担割合なども十分に協議、調整する必要がある。
- (事務局) 寝屋川では、既に地域の方々によるワークショップや維持管理などに積極的に参加、取り組まれていることから、本整備箇所についても、一定の維持管理水準が確保されると考える。
- ・西大阪ブロック(八軒家浜整備、津波ステーション(仮称))新規事業
- (委員) 八軒家浜整備について、歴史的な分野である熊野街道との結節点や情報発信とはどのようなイメージか。
- (事務局) 具体的なところは、国土交通省等、関係者と一緒に検討している。
- (委員) 整備方針について、様々な選択肢を全て満足させようとするとはやけたものになる。府の整備イメージを教えて欲しい。
- (事務局) 水の都大阪の再生として、観光も目的のひとつである。しかし、道頓堀みたいではなく、歴史をテーマとし落ち着いた雰囲気になると思う。ただ、観光の観点から、水辺のにぎわいづくりを行いたいと考えている。
- (委員) 今回の議論は 期エリアだけでなく、 期エリアでも活かしてほしい。
八軒家浜の地域、歴史性の雰囲気を踏まえ、他とは違う整備をお願いしたい。
- (事務局) 歴史を踏まえた重厚感の創出など、ここにしかない素材を十分活かし「オンリーワン」を目指した整備を考えていきたい。また、熊野古道の基点として、にぎわいを創出するためには、民間施設との連携が必要である。ここは河川区域であり、法上の問題がある。関係機関と規制緩和などについて検討することも必要と考える。
- (委員) 豪華華美な過大投資の「ベストワン」ではなく、大阪の実情にあった「オンリーワン」として展開いただきたい。
- (委員) 津波ステーション(仮称)のプレゼンテーション室について、運営やランニングコストも考えた検討を行なう必要がある。
- (委員) かなり注目されている。津波については、ここに行けば分かる、津波教育や情報発信の基点として、どう活用されていくのか。
- (委員) こうしたことは、先に何をを見せていくかを考え、それに合う形なり箱を組み立てることが大切。従来の総合学習だけでなく、柔軟な発想を持って考えていただきたい。

(事務局) プレゼンテーション室や啓発手法等は、まだ構想段階。大阪には、津波に関する遺跡的なものはないが、津波に係わった歴史、事実はある。歴史的なもの、それに関わってきた事実をキーワードとし、ビジュアル、掲示物等、検討していく。

・一級河川淀川水系神崎川ブロック河川整備計画 治水計画について

一級河川淀川水系神崎川ブロック河川整備計画の治水計画の説明に対して委員会より以下のような意見、指摘事項があった。意見、指摘事項に対して加筆修正等を行うとともに、次回より、治水手法の検討を行い、その結果も踏まえて基本となる高水のピーク流量等へ振り返ることとなった。

(委員) モデル降雨も含む、23降雨波形を対象にするとなっている。しかし、それ以外の降雨波形を、検証しているのには意味があるのか。

(事務局) 23降雨波形が、時間雨量や空間分布など特異でないかを、確認してもらうため、実績降雨パターン、様々なモデル降雨により検証を行った。

(委員) モデル降雨の時間雨量 84 mmが棄却域を越えるから、棄却域の考えをなくすことで矛盾が無くなるという問題ではない。モデル降雨が100年確率の雨とは違うものになっているという疑問であり、それに対する論理的な回答が無い。

(事務局) 大阪府の雨の考え方として、例えば日雨量でいくら、時間雨量でいくらかを、確率で説明している。ただ、同時刻に発生する確率論は論じていない。

前回、示した500年確率での棄却は、これまで実施していなかった。84 mm/hが流域一様に降ることは確率的に低い。しかし、大阪府は淀川のような大河川ではないので、流域一様を対象として、こうした雨をふらせることを前提条件として計画としている。

(委員) 時間雨量 84 mmが流域一様に降ることの確率を求めているのではない。500年確率の時間雨量 67 mmと言う値と比較すれば確率的に低いことが分かると言っている。今示されている従来の計画は過去102年の降雨をふまえたものとして理解しようとしているので、その観点での回答がほしい。近年の降雨傾向をどう計画へとらえるかは委員会で議論が必要と考えるが、今は議論していない。

(委員) 従来の計画として、モデル降雨を含む23降雨を示している。たしかに将来や近年の降雨傾向とした考えは議論されたものでない。モデル降雨は計画という扱い。降雨パターンは色々あり、先ほど事務局は検証として出された結果から比較しても、妥当ではという説明であった。モデル降雨をどう判断するのだが、大阪府の考え方を示されたということでは。

(委員) 前回まで棄却していた取り扱いをなくした事を説明する必要がある。

(事務局) 前回までは20降雨であったが、今回混乱を招いた1/500の棄却をなくし、22降雨となった。前回の棄却は、誤解を招くものであった。

(委員) 前回まで棄却していた取り扱いをなくした事を説明する必要がある。

(事務局) 前回までは20降雨であったが、今回混乱を招いた1/500の棄却をなくし、22降雨となった。前回の棄却は、誤解を招くものであった。

(委員) 新たに2降雨を含める実績の22降雨とモデル降雨との23降雨波形のピーク流量の結果が、587~1811m³/sになる。

(委員) 23降雨のピーク流量はすべてカバーすることとするのか。

(事務局) 23降雨はすべてカバーすることとして、治水計画を検討していきたい。

(委員) 基本とする高水の検討は、時間雨量84mm等の議論もあるが、例えば、今回提示いただいた、基本とする高水群とする23降雨波形により、治水手法のオルタナティブの検討を進めることにより、雨の傾向を見る必要があるか、従来の計画が抱合されているかなどの議論ができるのでは。そうした議論の中で基本とする高水についてフィードバックするというやり方はどうか。

(委員) 例えば基本とする高水群を対象にした洪水処理の対応・組み合わせを行い、どういう施設の組み合わせにするかといった施設計画の意思決定について理解を共有できるのであれば、そういう方法もあるのではと思う。

(委員) 次回以降は、基本とする高水群として治水手法の検討へ進め、それらの内容、審議を踏まえ、もう一度、基本とする高水へ振り返る方向で進めていく。